

平和について考える

～イスラエルの母と息子から平和について 6年生が考えたこと～

- 戦争は憎しみのかたまり、残虐のかたまりだと思います。
戦争は何があっても起こしてはいけないと改めて思い知らされました。
- 今、私たちが暮らしている生活は当たり前ではないと改めて実感しました。
母の平和への願い。息子も憎んだり 恨んだりする気持ちをやめて
平和への願いを受け継いだ。本当にすごい家族だと思いました
これからも家族という1秒1秒を大切に、たくさん親孝行したり、団欒をつくっ
ていきたいです。日本もこのようなことがないように心から願います。
- 最初、「戦争」と聞いた時は、「今もどこかの国でやっているな」と思ったけど
母が「憎しみをなくそう」と考えていたのは本当に素敵だと思いました
息子と母との最後のラインの言葉。もし自分なら、ハマスを恨みまくると思いま
す。息子が「恨みを断ち切ろう」というのは、平和を象徴する言葉だと思いま
した。これから平和を願っていきたい
- 戦争がどれだけ人を悲しませるかわかりました。
平和がとても大切だと感じました。
- 母は病気の人を病院に送ったり、平和を祈って行進しました。とても優しい人なの
に殺されてしまい、とてもかわいそうでした。私は何のために戦争をして人を殺
し合うのか知りたいです。この世界から戦争がなくなっしてほしいです。
- 母が殺されても平和にしたいという息子の気持ちを戦争を仕掛けた人に教えてほ
しいです。戦争は人々から大切なものを奪ってばかりです。
人々は平和になってほしいと思っているのに…
戦争をしている人々に国民の気持ちを知ってほしいです
- イスラエルとパレスチナの人と一緒に平和を願って行進しているところから、すご
く思いが伝わってきた。母が殺される直前のライン、ものすごく悲しい思い、感謝の
思い、まだ生きたいという思い、いろいろな思いを感じました。

•母を殺されても、戦争をなくすために復讐をしないで、我慢したことがすごいと思いました。今も戦争がまだ、あるけど こういう場面で辛い思いをした人たちの思いが世界平和につながるといいと思った

•母が殺されても戦争を終わらせようと頑張っている人がたくさんいることがわかりました。平和な世界にしようと行進している人がいることもわかりました。これからは日本以外の国も平和主義になってもらいたいです。

•イスラエルとパレスチナともに平和にしようとしていた母はすごい人。ハマスに母を殺されても、息子は「今、自分が憎しみを断ち切らないと亡くなった母を悲しませる」といって、親子で平和を願う気持ちがすごいと思いました。

•母が願っていた平和を息子が、母が殺されても憎しみや怒りを抑えて平和を願う母の思いを受け継いでいて、母と息子の絆がすごいと思いました。

•母が遺した最後のメッセージ。心配になって危険なのに現場に駆け付けた息子は母思いだと思いました。母が平和を願っているのがとてもいいと思いました私も今すぐ戦争をやめてほしいです。

•母はイスラエルとパレスチナが平和になってほしいと思っていたのに、ハマスに殺された。息子は憎しみでいっぱいだったと思うけど、息子は「憎しみを断ち切らないと平和を願う母が悲しむ」と言いました。日本は平和主義で戦争しない国だけど息子のことばで平和に対しての思いが変わりました。

•母は平和を訴えるために、行進やパレスチナの癌患者をイスラエルの病院に連れて行くなど、戦争が終わってほしいという思いが伝わってきました
家族との時間を大切に過ごしたいと思いました。戦争は大切な人をなくすことだから、戦争はしないでほしいと思いました

•なぜ、戦争をするのか不思議になりました。戦争はいいことなんて一つもないのに何でするのか不思議です。話を聞いてかなしくなりました。母はとてもいい人です。戦争は必ずなくなしてほしいです。

•戦争は人の命を奪うものです。母は「戦争をしてほしくない。平和でいたい」という気持ちで活動していたと思いました。母がハマスに殺されました。このことを思うと戦争はあってはいけないと思いました。

•戦争をして、憎しみや恨みを晴らしているのだろうけど。戦争などの武力で解決することは、結局、憎しみや恨みを増やすだけで、それがループして、また増えるので、しっかり話し合っしてほしいです。母が殺されてしまったのに息子は復讐せず、母の言葉「平和」をいていたのがすごいと思いました。

※「平和への思い」「平和を願う人の強い思い」「家族の絆」など
いろいろなことを6年生は考えました。
平和な社会をつくる一員としての思いが伝わってきました。